

2026 年度  
事業計画書

学校法人 藤天使学園

## 目 次

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 1 学園の概要 .....             | 1  |
| (1) はじめに .....            | 1  |
| (2) 建学の精神 .....           | 2  |
| (3) 藤天使学園の沿革.....         | 3  |
| <br>                      |    |
| 2 2026年度事業計画の概要 .....     | 5  |
| (1) 藤女子大学 .....           | 6  |
| 【1】基本方針 .....             | 6  |
| 【2】重点項目 .....             | 6  |
| 【3】教育・研究事業計画 .....        | 6  |
| 【4】施設・設備事業計画 .....        | 7  |
| 【5】その他の事業計画（人事・財務等） ..... | 7  |
| (2) 天使大学 .....            | 7  |
| 【1】基本方針 .....             | 7  |
| 【2】重点項目 .....             | 8  |
| (3) 藤女子中学校・高等学校.....      | 8  |
| 【1】基本方針 .....             | 8  |
| 【2】重点項目 .....             | 9  |
| 【3】教育・研究事業 .....          | 9  |
| 【4】施設・設備事業計画 .....        | 11 |
| 【5】その他の事業計画（人事・財務等） ..... | 11 |
| (4) 幼稚園 各園 .....          | 11 |
| 【1】基本方針 .....             | 11 |
| 【2】重点項目 .....             | 12 |
| 【3】教育・研究事業 .....          | 12 |
| 【4】施設・設備計画 .....          | 13 |
| 【5】その他の事業計画 .....         | 13 |

# 1 学園の概要

## (1) はじめに

学校法人藤天使学園は、ヴェンセスラウス・キノルド司教の要請によって1920年にドイツから派遣された、殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会修道女たちにより、1925年に開校した5年制の札幌藤高等女学校に始まる学園です。

第二次世界大戦終了後における教育制度改革により、藤女子中学校・藤女子高等学校となり、更に、知性豊かな教養ある職業婦人を養成するために藤女子専門学校・藤女子短期大学・藤女子大学へと続く高等教育機関を設け、日本社会の再建と発展に力を尽くしてまいりました。

一方、マリアの宣教者フランシスコ修道会は1908年に札幌に派遣されて施療活動を始め、1911年には天使病院を開設して北海道の医療に先駆的な貢献をしてきました。この修道会は《藤学園》が高等教育を始めると同時期に《天使学園》を設けて、専門学校から短期大学において看護・栄養教育を行ってきました。そして、修道会の手を離れて2000年に四年制大学へ転換し、カトリック大学として高度な専門職業人養成を行ってきました。

藤学園と天使学園というこの二つのカトリック学園は、2024年4月1日より一つの学園となり、学校法人藤天使学園となりました。カトリック精神を基盤として教育を行い、一人ひとりとは<神に愛された存在>であるというキリスト教的人間観に基づいて、幼児教育、中等教育、高等教育に全力を尽くします。

2025年に創立100周年を迎えた本学園は、創立時から現在に至るまで、本学園を育ててくださった先人たちの献身的な教育活動に思いを馳せながら、私たちは未来へ向って歩んで参ります。

21世紀の世界に生きる人を育てる学園として、「愛をとおして真理へ」という建学の精神のもと、他者の幸せのために尽くす心を育て、身近な人への温かい心と、世界に向って開かれた心を兼ね備えた、知性豊かで献身的な人間を育てます。

理事長 永田 淑子

## (2) 建学の精神

「愛をとおして真理へ」(Per Caritatem Ad Veritatem)

藤天使学園はカトリック精神に基づいて、神によって与えられた一人ひとりのいのちの尊厳を大切にすることを基盤とします。

神から愛されている存在として自分を受け入れ、自分に刻まれた良心に従って正しく生き、周りの人への愛に努め、さらに世界の人々の平和と幸せのために尽くす心を育てます。私たちは、具体的で身近な愛の実践を通して、より高い真理に到達することを目指します。

\*\*\*\*\*

創立以来の校訓 「謙遜・忠実・潔白」

教育のモットー 「一人ひとりの 咲くべき花を 咲かせよう

～うつくしく やさしく しなやかに～ 」

### (3) 藤天使学園の沿革

#### (3) -1 藤学園の沿革

1920（大正9）年本学園の創設者であるキノルド司教は、札幌での布教活動の中で、北海道の発展のためには、とりわけ、女子教育が最も重要であると考え、本国ドイツから修道女を招きました。師とともに3人の若き修道女は、信仰心に支えられた情熱と勇気をもって、異国の地札幌に確固とした愛の教育の根を下ろし、今日の藤学園の礎を築きました。

1925（大正14）年「札幌藤高等女学校」として入学者167名で発足しましたが、その後の出生数の急増等に伴い、道内を中心に幼稚園、高等学校、大学等を相次いで開設いたしました。

1934年には、現在の小樽にマリア幼稚園（現小樽藤幼稚園）を開設し、続いて1938年に札幌市に藤幼稚園を開設し、その後も函館藤幼稚園、旭川藤幼稚園、青森藤幼稚園、苫小牧藤幼稚園、草加藤幼稚園、大麻藤幼稚園の8園を1968年までに開設しています。

また札幌藤高等女学校は、1948年に新制度施行に伴い、藤女子高等学校全日課程普通科、同中学校として承継されています。

1947年には、専門学校令により藤女子専門学校（国語科・生活科）が認可され、続く1950年に藤女子短期大学（国文科・英文科・家政科）の開設へと引き継がれています。

1953年には、藤学園旭川高等学校（現旭川藤星高等学校）を開設、翌年藤学園旭川中学校、新懇藤学園中学校を開設し、1956年には北見藤女子高等学校（現北見藤高等学校）、同中学校を開設、1958年には新懇藤学園高等学校を開設しています。

1961年には、北海道初の女子大学として、藤女子大学文学部（英文学科・国文学科）を開設し、1992年には人間生活学部（人間生活学科・食物栄養学科）を設置、2000年には短期大学を改組し、文学部に英語文化学科、日本語・日本文学科、文化総合学科の3学科、人間生活学部人間生活学科、食物栄養学科、保育学科の3学科を設置し、2002年には大学院人間生活学研究科を開設しています。2020年4月には保育学科を改組し、小学校教諭養成課程を併設した、子ども教育学科を設置いたしました。また、2025年4月に人間生活学部（人間生活学科・食物栄養学科）をウェルビーイング学部（地域創生学科・食環境マネジメント学科）、大学院人間生活学研究科をウェルビーイング学部研究科と改称いたしました。

#### (3) -2 天使学園の沿革

天使学園のルーツは、1908（明治41）年にマリアの宣教者フランシスコ修道会（以下、「FMM」という。）がローマから7名の修道女を札幌に派遣し、開拓民のために施療所（現在の天使病院）を開設したことに始まります。

1935（昭和10）年、ローマ教皇ピオ11世が看護に携わる修道女たちに看護人材の養成に力を注ぐことを勧め、FMMは、札幌と東京で高いレベルの看護教育を始めることを決定し、1947（昭和22）年、天使大学の前身となる札幌天使女子厚生専門学校を、2年後に天使女子栄養学院を設立した。1950（昭和25）年、わが国看護教育初の短期大学になる天使厚生短期大学として認可され、1952（昭和27）年に天使助産婦学校を開設しています。

1954年に校名を天使女子短期大学と改称し、1965（昭和40）年、日本初の短期大学専攻科保健師助産師合同課程を開設しています。

開設以来多くの卒業生を看護師、保健師、助産師、管理栄養士及び栄養士として国内はもとより世界に送り出し高い評価を得てきています。

このような実績を踏まえて、2000（平成12）年に短期大学から4年制の学士課程天使大学に改組いたしました。

天使大学は、看護栄養学部看護学科及び栄養学科に加え、2004年度に専門職大学院助産研究科を、2006年度には大学院看護栄養学研究科を開設し、現在では1学部2学科2研究科を擁する大学へと発展しています。

### (3) -3 藤天使学園の沿革

2024年4月1日に学校法人藤学園と学校法人天使学園が合併し、学校法人藤天使学園となりました。2025年には学園創立100周年を迎えることができました。

設置する学校は次の通りです。

|                |                 |   |
|----------------|-----------------|---|
| 藤女子大学          | 大 学 院<br>文 学 部  | ウェルビーイング学研究科<br>英語文化学科<br>日本語・日本文学科<br>文化総合学科 |
|                | ウェルビーイング学部      | 地域創生学科<br>食環境マネジメント学科<br>子ども教育学科              |
| 天使大学           | 大 学 院<br>看護栄養学部 | 助産研究科（専門職大学院）<br>看護栄養学研究科<br>看護学科<br>栄養学科     |
| 藤女子高等学校（全日制課程） |                 |   |
| 藤女子中学校         |                 |   |
| 認定こども園藤幼稚園     |                 |   |
| 認定こども園函館藤幼稚園   |                 |   |
| 認定こども園苫小牧藤幼稚園  |                 |   |

## 2 2026年度事業計画の概要

藤天使学園は、昨年、関係の皆様のご支援とご協力の下に創立100周年を迎えることができました。2026年度は新たな100年に向けた重要な一年になります。これまでの歩みを土台にして、今後、社会の急激な変化に適切に対応して学園の持続可能な発展を目指してまいります。

昨年度、藤天使学園中期計画を策定しましたので、各設置校はこの計画の下で、それぞれの特徴を活かした計画を作成し、取組みを推進していきます。

引き続き私立学校法及び寄附行為に基づいて学園の運営を適切に進めてまいります。

また、学園の諸活動が健全かつ合理的に運営されるよう内部統制システムの整備に努めてまいります。

文部科学省では、中央教育審議会が昨年2月に「我が国の『知の総和』向上の未来像～高等教育システムの再構築～」を答申しました。また、本年2月には「2040年を見据えて社会とともに歩む私立大学の在り方検討会議」の審議纏めが公表されました。

依然として出生数は過去最少を更新し、2040年の大学進学者数は46万人に減少すると見込まれるなど、私立学校の経営は大変厳しい状況になることが想定されています。

このため、文部科学省は再編、統合等による規模の適正化に向けた私立大学の経営改革の強化を打ち出しました。

学園の高校・中学・幼稚園も同様に入学者数が定員を割り込む厳しい状況が続いており、学園及び各設置校の経営健全化の取組みは急務です。全ての学園関係者は危機感を共有し、各設置校のあり方を抜本的に見つめ直す好機と捉え、今一度、学園の創立者が厳しい環境の中で学校を創設した労苦に思いを致し、予測困難といわれる今日、建学の精神に基づき時代の変化と社会のニーズに応じて必要とされる教育を提供できるよう、学園一丸となって取り組んでまいります。

学校法人藤天使学園の設置する各校の、2026年度の事業計画は以下の通りです。

## (1) 藤女子大学

### 【1】基本方針

- (1) 藤天使学園並びに本学の中期計画を基に、本学の諸課題や事業の実現に向けて活動する。
- (2) 2025年度に決定した花川キャンパスの閉鎖と北16条キャンパスへの集約を着実に実行し、教育・研究環境を維持する。
- (3) 学生定員の安定的な確保に向けた全学的な学生募集活動、広報活動を実施する。
- (4) 補助金、寄付金、受託事業収入等の外部資金獲得に努める。
- (5) 支出総額の抑制を図るため人件費の削減（諸手当の削減、採用人事の原則凍結等）を行うとともに、教育・研究活動や整備費等についても適正な支出に努める。

### 【2】重点項目

- (1) 着実に北16条キャンパスへ移転できるよう関係各所の連携を図る。
- (2) 事務業務の見直しと効率化を図り、超過勤務を減少させる。
- (3) 委員会等の見直しと効率化を図り、業務の軽減を図る。
- (4) 休退学者を減少させるための対策として、学修支援室の充実化を図る。
- (5) 産官学連携により学生の参画を推進することで、学生の社会人基礎力をあげるとともに、国内外で活躍できる人材の養成をめざす。
- (6) 適切な情報発信及びwebコンテンツの充実を図り、学生募集を強化する。
- (7) 天使大学との教育・研究・事務をはじめとする様々な分野における連携について検討・実施する。
- (8) 入試日程・入試方法・会場等の課題を整理・検討し、入試制度の改善を図る。

### 【3】教育・研究事業計画

- (1) 多様な学生に対応するために開設した学修支援室の利用促進ならびにサポート体制の拡充に努める。
- (2) 基盤教育科目を見直し、キャリアを育成するためのプログラム化の検討を行う。
- (3) 学生個々の学修履歴の記録・振り返り等を支援する仕組みを構築するため、本学に適した学修ポートフォリオシステムの導入に向けて検討を行う。
- (4) 大学全体のディプロマ・ポリシー、コモン・ループリック、アセスメント・ポリシー等を確立し、成績評価体制としてのアセスメント・ポリシーを構築し、学修成果の可視化を図る。
- (5) 危機管理体制を見直し、災害発生時等に迅速かつ実質的に機能できる体制、マニュアル等を早急に整備する。

- (6) 大学教育・研究における産官学連携に向けて体制を整え、地元産業界等と連携した実践的PBLの実施などを推進・実現する仕組みづくりを行う。
- (7) IR (Institutional Research) の基盤となる本学に関する諸情報を集約・整理・分析し、課題と改善策の検討及び内部質保証における検証体制を整備する。
- (8) 学生のクラブ活動の環境整備と活動の促進を図る。

#### 【4】施設・設備事業計画

- (1) 北16条キャンパス移転のための環境整備

#### 【5】その他の事業計画（人事・財務等）

- (1) 藤天使学園と関連付けた中長期計画及び財務計画を策定する。
- (2) 藤女子大学顧問による学長への助言及び支援
- (3) 人件費の削減方策に関する検討を継続する。
- (4) 教職員の評価制度の導入について検討する。
- (5) 「スカラシップ制度」を見直すと共に、「スカラシップ制度」を利用し入学した学生の修学状況について検証し、制度の充実を図る。
- (6) 職員の業務改善のSDを実施し、意識改革を行う。
- (7) 同窓会（藤の実会）の役員との意見交換の場を定期的に設け、生涯教育講座の実施等について協議を継続する。
- (8) 藤女子中学・高等学校をはじめとした高大連携の体制を整備し、高大接続講座などをはじめとするさまざまな連携を実現し、受験者拡大を図る。

## (2) 天使大学

#### 【1】基本方針

- (1) 法人合併の成果を活かすため、藤女子大学と天使大学が両大学の教学改革及び事務局連携に協力して取り組む。
- (2) 顧問を置くこととし、学長に対して大学の全学的な課題への助言、協力を行い、諸会議に出席し、学長を支援する。
- (3) 後援会及び同窓会と連携し、在学生、保護者、同窓生、本学志願者、地域住民等に対して、天使大学の現況について積極的に情報発信を行う。
- (4) 安定的な入学者確保のために、既存の入学者選抜の内容及び運営方法を改正し、新たな選抜試験を実施する。
- (5) 多様な入学者選抜による入学予定者に対する入学前教育を充実させる。

- (6) 生成A I の活用を前提とした新しい教育、評価方法等の在り方を検討するとともに、学生及び教職員に対する生成A I に関するリテラシー教育を強化する。
- (7) 看護師・保健師・助産師・管理栄養士等の国家試験受験に向けた学生支援並びに就職先の多様化及び就職活動の早期化に伴う就職支援を充実させる。
- (8) 学修成果を可視化するため、学修成果指標の設定、評価方法を検討し、ディプロマ・サプリメント策定に向けて検討する。

## 【2】重点項目

### (1) 教育・研究事業計画

- ① 「知の総和」 答申の方針を踏まえた内部質保証体制の検討
- ② 2027 年度看護栄養学部看護学科・栄養学科のカリキュラム改正に向けた申請準備
- ③ 2027 年度助産研究科助産専攻助産基礎分野のカリキュラム改正に向けた申請準備
- ④ 大学院看護栄養学研究科看護学専攻博士後期課程の完成年度を迎え、今後の教員体制、教育環境の整備及び運営の検討

### (2) 主な施設・設備事業計画

- ① 6 号館外壁補修工事
- ② 3 号館排水管更新工事
- ③ 教務システム及び人事・給与システムの入れ替え

### (3) その他の事業計画（人事・財務等）

- ① 前年度予算から4%のマイナスシーリング予算編成
- ② 藤天使学園中期計画及び天使大学学長指針に連動した天使大学中期計画の策定
- ③ 天使大学顧問の創設による学長への助言及び支援
- ④ 藤女子大学と天使大学による職員の人事交流
- ⑤ 大学院助産研究科助産専攻助産基礎分野における学内推薦型選抜の導入
- ⑥ 看護栄養学部看護学科における総合型選抜の導入

## (3) 藤女子中学校・高等学校

### 【1】基本方針

知の拠点として地域社会やグローバル社会と共生・共創し、教育・研究活動を通して社会の持続可能な発展と人々のウェルビーイングの向上に貢献する。

生徒の能動的な学びを促す先進的かつ多様な教育を組織的に実践することにより、主体的に考え行動し、社会で必要な問題解決能力を持つ「自らの未来を切り拓く力」を備えた人財を育成する。

教職員が生徒を愛し、共に成長する意識を持ち、常に教育改革と学園の安定的な運営に全力で取り組むことを約束し、総合学園として地域の発展に貢献する。

## 【2】重点項目

### (1) 教育改革

急速に変化する社会に柔軟に対応できる力を育むため、学びの質を高め、生徒が豊かな教養と高い倫理観、的確な判断力、深い思考力、自らの考えを表現する力を身につけ、生涯にわたって学び続ける姿勢を育成する。

### (2) 生徒支援

多様な背景をもつ生徒一人ひとりが、安心して充実した学校生活を送れるように支援体制を整えるとともに、自らの可能性を信じて未来を切り拓く力を育み、社会に貢献できる人財の育成を目指した教育環境の充実を図る。

### (3) グローバル

豊かな教養と優れた語学力を持ち、地域並びに世界の発展に貢献できるグローバル市民を育成する。

### (4) 広報

対面での広報活動を推進するとともに、受験者及び保護者等へのデジタルメディアでの情報発信を増やすことで志願者の増加、入学者の確保を図る。併せて学校ブランドの再構築を図る。

### (5) 経営基盤強化・ガバナンス

持続的成長を実現する経営基盤強化のため、社会及び外部環境の変化に対応して健全で安定した財務基盤を構築維持するとともに、将来構想を推進するための組織・人事・ガバナンス等の経営基盤の強化を進める。また漸減する12歳15歳人口へ対応策として、海外からの帰国子女の受け入れの推進、理系進学を強化する。

## 【3】教育・研究事業計画

### 1. ①倫理的判断力を育てる教育の実施

宗教行事や瞑目等の意義や方法を再確認し、学校行事を通じて他者を尊重し、社会に貢献する姿勢を養う。

### ②STEAM教育の推進

教科間の情報共有を密にし、横断的な学びを実践する。

### ③ICT・AIを活用した主体的な学びの促進

教職員のAIツール活用を推進し、授業や業務に利活用する。

### ④探求的な学習活動の推進

各教科、学年で行っている探求活動を公開し、研究する。

### ⑤多様な表現の機会の提供

行事毎に体験からエッセイを書く習慣をつける。各教科、学年で行っている表現活動を公開し、研究する。

⑥読書活動と教養教育の充実

読書マラソンなど、新たな取り組みを検討する。中高大連携の教養講座を実施する。

⑦学び続ける姿勢を育む振り返りの習慣化

担任・学年主導で学習手帳「フジロク」の活用、定期的なポートフォリオの作成を行う。

2. ①多様性を尊重する教育の推進

キリスト教倫理・宗教授業や待降節の取り組みなどを通して、心を育てる授業や活動を実施する。

②個別支援体制の推進

生徒の個人面談、保護者との連携を通して、一人ひとりに寄り添った支援を行う。

③進路支援の充実

「未来のわたしプログラム」、校内大学説明会、中高大連携授業等を実施する。

④安心・安全な学校環境の整備

日常の挨拶、マナー、ネットリテラシー教育を継続的に行うとともに、より実践的な防火訓練を実施する。

⑤社会参画意識を育む体験活動の充実

「Blue Earth Project」やシエラレオネへの支援、ボランティア活動を行う。

3. ①国際交流事業の推進

アイルランド姉妹校交流、英国、オーストラリア、カナダ等の海外研修を実施する。

②大学等との連携の強化

藤女子大学、天使大学と連携を強化し、上智大学、北大との連携を継続する。

③英語力のさらなる向上

英語を使って学ぶことに重きを置いた CLIL の研究を行うとともに英検講座を継続する。

④留学等の環境整備

Dual Diploma Program の募集活動を行い、海外進学を希望する生徒を支援する。

4. ①学校説明会・個別相談会の充実と拡充

来校者の満足度を考慮した説明会・相談会を実施する。

②在校生の成長と魅力を伝える広報の充実

広報局など生徒主体の広報活動を活発化する。

③受験生・保護者向けサイトの整備

HP をリニューアルし、入試情報などを掲載した専用ページを充実させる。

④ SNS を活用した情報発信の強化

公式 Facebook や Instagram、HP の閲覧回数が増加するようタイムリーな発信を行う。

⑤ 海外での広報活動の展開

海外赴任者向け雑誌への広告など、効果的な広報活動を行う。

5. ① ガバナンス強化のための環境整備

教務システム BLEND 等を効果的に用い、教職員、保護者との情報共有を充実させる。

② 人事に関する制度の整備・人事計画の構築

学校の将来を見据えた人員配置を検討する。

③ 財務の健全性確保に向けた諸施策の推進

予算編成と執行について教職員と情報共有を密に行う。

④ 学校施策等の活用整備

帰国子女も入舎する寄宿舍、関係者が利用しやすい藤の木会館を目指す。

⑤ 帰国子女入試の実施、理系大学進学強化

帰国子女入試要項の策定。理系大学との連携推進を模索する。

**【4】施設・設備事業計画**

(1) 施設及び設備の適切な維持管理、施設の長寿命化

① 既存(特別教室)エアコンの更新、熱交換器プレート交換、校舎外装(タイル)改修など

② 外灯等の LED 化、寄宿舍のボイラー更新

(2) その他

① 藤の木会館の水回り改修、3 階エアコン設置

(3) 学園創立 100 周年関連事業

① 図書館等の充実、教室等のトイレ改修等

**【5】その他事業計画（人事・財務等）**

(1) 広報(発信機能)の強化

① ホームページの更新

(2) 効率的で効果的な教職員配置

① 年度末定年退職者に伴う専任教員体制の検討

② 教育課程及び高校からの入学生に対応した教職員の適正配置

③ 定年延長制度の取扱いに向けた検討

④ 外部(専門)人材の活用拡大の検討

- (3) 同一賃金同一労働の考え方や最低賃金改定を踏まえた手当等の見直しの検討
- (4) 事務の更なる効率化
  - ① AI 活用の検討
  - ② 業務委託の拡充等の検討
- (5) 「持続可能な学校経営」と「質の高い教育の提供」を両立させるための収益確保等
  - ① インフレ率等を踏まえた適切な学納金等の見直し検討
  - ② 支出超過を解消し収支の均衡等を図るため、必要な緊急修繕や投資的なハード・ソフト事業に要する経費を除く支出を 2025 年度当初予算以下に抑制することを基本原則とする。

#### (4) 幼稚園 各園

##### 【1】基本方針

キリスト教の人間観に基づき、一人ひとりの子供をかけがえのない存在として大切に育み、健全な心身の発達と人格形成の基礎を培う教育

##### 【2】重点項目

##### (4) -1 認定こども園藤幼稚園

- ・藤天使学園の建学精神に基づく教育内容をさらに深め、本園の特色あるモンテッソーリ教育の質の向上に努める。

##### (4) -2 認定こども園函館藤幼稚園

- ・国内研修・研修会に参加するとともに、教職員の質の向上を図る。

##### (4) -3 認定こども園苫小牧藤幼稚園

- ・藤天使学園の園としての建学の精神を大切に子ども達一人ひとりが、神様の愛を知り、人として大切な心の教育が幼児期にしっかりと築いていけるように、また、保育者も一人ひとり子ども達を大切にしながら、子ども自身の良さを認めながら、自分で考え行動していけるような子ども主体の保育に努めていく。
- ・少ない人材で最大効果を具現するために、相互の仕事の大切さを認め合い、それぞれの力を有効に活用する一致団結の精神を持つことを求める。

##### 【3】教育・研究事業

##### (4) -1 認定こども園藤幼稚園

- ① 異年齢混合の縦割り保育形態の良さを発信していく。
- ② 園内研修を深め、継続して園児たちに還元していく。
- ③ 本園の特色である宗教教育、モンテッソーリ教育を中心とした質の高い幼児教育の維持について園内研修を実施し理解を深める。

- ④ 地域子育ての相談役として、本園の園児の他、来園する未満児クラスの親子の相談にも可能な限り対応する。藤幼稚園の魅力を知ってもらう。
- ⑤ 夏冬春休みの預かり保育の実施、来年度以降の満3歳児獲得のための計画を検討する。

#### **(4) -2 認定こども園函館藤幼稚園**

- ① 園内・園外の研修の充実を図る。
- ② 2歳児保育・教育の充実を図るとともに、入園に繋げていく。
- ③ 一人ひとりに合った教育・保育の資質の向上を図るとともに、集団生活においての基盤づくりを各学年に応じておこなう。
- ④ 個別支援の必要な園児については、保護者との連携を図ると共に専門的機関にも依頼し、教育・保育の充実を図る。

#### **(4) -3 認定こども園苫小牧藤幼稚園**

- ① 一人ひとりの職員のスキルアップを図るため、研修を通して学びの場を増やしながら、お互いを高め合っていけるように自己研鑽に努める。また、“大切にしていきたい一人ひとりの子ども達を見る丁寧な保育”は今年度も再度見つめ直し、保護者への対応、信頼関係を築き、信頼を持ちながら大切にしていく。
- ② 今後も環境設定を見つめ直し、子ども達の安全、遊びの充実を図り、一人ひとりの子ども達が自分で考えて楽しめる保育と、園児個々の成長段階に合わせ課題を持ちながら、遊びを通し、友だちとの関わりを通して成長していけるような保育を目指す。
- ③ 障がい児支援を必要とする園児については細やかなケアを日々研究し、園生活を通して子ども達一人ひとりの成長を全職員が共通理解し、指導・配慮していけるように心掛ける。

### **【4】施設・設備計画**

#### **(4) -1 認定こども園藤幼稚園**

- ① 照明のLED化工事
- ② 園庭の芝生修繕
- ③ パソコン購入

#### **(4) -2 認定こども園函館藤幼稚園**

- ① 前庭の芝生修繕
- ② 園庭の大型遊具のメンテナンス
- ③ 園敷地内の外灯設置工事

#### **(4) -3 認定こども園苫小牧藤幼稚園**

- ① 園庭砂場の整備
- ② エアコン、暖房器具の整備

**【5】その他の事業計画**

**(4) -1 認定こども園藤幼稚園**

- ① 0～1歳児の子育てサロンを前年より多く開催する。
- ② 教職員の働き方に注視し、引き続き「働き方改革」を進めていく。

**(4) -2 認定こども園函館藤幼稚園**

- ① 0歳児からの親子登園の充実、一時預かり保育の充実をはかる。
- ② 働き方改革に基づいた勤務体制の見直しをはかり、引き続きより良い環境で働ける職場づくりを目指す。

**(4) -3 認定こども園苫小牧藤幼稚園**

- ① 土曜日を利用した園開放やイベント等、地域開放の充実をはかる。
- ② 一人ひとりの意見を大切にやりがいのある職場となるよう、引き続き働きやすい職場作りを大切にする。

以上